

## あすなろの家 令和4年度事業報告

令和4年度は「繋ぐ」をワードとして、毎日人と繋がること、あすなろとして地域や新しい分野と繋がっていくことを意識しながら事業を進めてきた。しかし、R4年7月～8月にかけての新型コロナクラスター感染、そして1か月後の9月末の台風15号による土砂災害と断水。想定外の事態が起こった中ではあったが、あすなろの持ち前の団結力と明るさ、少しのあそび心で乗り越えたように感じる。また、ライフサポートメイトさん（介護補助業務）の導入に挑戦し業務の変更に取り組んだ。

### 「本物のケア」

前年度同様、「教えてほしい」ことをリクエストし、ESRの介護技術指導を毎月5名ほどの職員が受け、個別ケアについて学ぶことができた。SC（step challenge）委員会による自立支援介護の在宅利用者事例検討を通じた学習会では自立支援介護の実践の経過をみていく仕組みを作った。また自立支援介護4つの基本ケアの基礎講座を全職員受講ができた。これらの実践の中からの課題としては、職員の興味や意欲をどう引き出していくのが重要だと言うことがわかった。またコロナ感染により、通常当たり前に提供しているサービスの休止を通し、そのサービスがご利用者の生活の中でインフラとなっていることも痛感し、継続したサービスの提供ができる体制作りにも課題があることがわかった。

### 「本物の接遇力」

言葉を大切に扱う、目指せ地域のピカイチ接遇を掲げ、ありがとうリンゴの取り組み（施設内の誰かに普段は言えてないありがとうをリンゴの置物に書いて渡す）を行った。またあすなろの接遇の現状を知り、自分の行動に気づいてほしいと、有志による寸劇を用いて、残念な場面、ダメだと思える場面、では良い対応は？という研修会をすべての部署会議で行った。福祉サービスの事故や虐待が続き、社会問題として取り沙汰されている現在、職員を守るという目的での監視カメラ導入の検討も始めている。あすなろの家の接遇力はもう一步足りない…。全員ができる！それが課題である。

### 「本物の繋がり」

計画通りにできなかった部分もあったが、「七夕ウォークラリー」「ミニ参観会」「カフェすまいる」「みんなの保健室」「ひかりサロン水族館遠足」「S型バス」「レッツポール体操」「ケアハウスクラフト教室」などたくさん企画を行い、繋がることが出来た。繋がったお店や会社に毎月通信を届けるなど、繋がりを継続させる工夫も行った。「福祉ワールド」と「新しい人材」を繋ぐあたりが進まなかったところである。台風による断水被害の際は、待っていないでとにかく動こうと団地を周り、一部の皆さんからは感謝されたそんな場面もあった。

「私たちが」では、職員さんからの「私やります」を募って、一緒に作り上げる取り組みを意識して増やしてきた。特に厨房については、地域向けのお菓子作り教室、デイやケアハウスでの握り寿司実演・実食など、職員のやりたい！を実行に繋げる取り組みを行ってみた！課題が多い分野ではあるが、少しずつじっくり取り組んでいく。

R6年度には介護保険改正が行われる。R5年度は情報収集とそれに向けた準備が必要。しかし、昨今の介護業界の現状や、将来の日本社会を見ても、「人材不足」「収支差（利益）ダウン」「介護報酬に依存するしかない」等、多くの課題が山積みの状態。今後も介護報酬の低減が益々加速する中、今の事業スタイルだけでは発展どころか、存続すらおぼつかなくなる。今までの延長線上とは異なる経営・運営が必要だと強く感じる。それを考え実践していかなければ、近い将来資本力のある法人や企業に吸収され、私たち

のような中小規模介護事業者は自然淘汰されるでしょう。

しかしそんな不安の中でも、私たちのやるべきことは、志や理念をぶらすことなく、利用者・家族・地域社会と向き合い、臨機応変に対応し寄り添うことを日々、当たり前のように継続し、存続し続けることが、高齢者と家族、その周辺の方々の、人生の質が保たれることに繋がるのだと信じております。

## ・その他の状況

### 主な修繕・設備整備の状況

ケアハウス308号室エアコン故障 入替	613,800円
特養ベッド入替（10台）	2,115,300円
職員・来客用トイレ入替（11台）	1,931,600円
インカムアクセスポイント増設	1,143,230円
ケアハウス1・2階個室化工事	9,900,000円
浄化槽ブロー故障 入替	212,850円
厨房エアコン故障 入替（2台）	599,500円
軽車両購入（1台）	410,800円

### 職員採用状況

退職 正規職員 5人（介護職3・歯科衛生士1・運転手1） ※内3名が定年退職者  
期間職員 2人（介護職）  
時給職員 3人（看護師1・介護補助2）  
採用 正規職員 1人（介護職） ※期間職員から夜勤のできる正規に  
期間職員 1人（介護職）  
時給職員 13人（介護補助）

### 防災

#### 訓練等実施状況

R4

- 5月 ・ケアハウス 消火器・消火栓使用方法確認 避難口の位置確認  
スプリンクラーの特徴・止め方説明  
・施設全体 災害時備蓄品の内容更新と確認

9月 施設裏山に土砂災害発生、地域住民と協力し土砂の撤去作業行う。  
断水による生活用水不足が発生、ポリタンクに施設の水を汲み入れ、高齢者宅（主に団地高層階）に水を配給する。またケアハウス浴室を日中開放し、シャワーのみであるが提供。

R5

- 1月 特養 土砂災害避難シュミレーション訓練（夜間想定）  
2月 ケアハウス 土砂災害避難シュミレーション訓練（日中想定）  
3月 特養・ケアハウス 地震→火災→避難 机上シュミレーション訓練（夜間・日中想定）

## 公衆衛生

R4.7月～8月にかけての約1カ月間、新型コロナウイルスによるクラスター感染を経験致しました。デイサービス利用者（ショートも利用していた）から感染が始まり、1階ショート利用者・1階特養入居者・2階特養入居者とあつという間に感染が拡大し、特養45名・ショート10名・デイ18名・ケアハウス3名の利用者が感染した。その間、感染拡大を止めるべく、コホーニング・ゾーニングはもちろん、防護服を身に着け、全職員でケアに当たりましたが拡大を止めることはできず、新型コロナ（オミクロン株）の驚異的な感染力を思い知らされました。職員への感染も入居者と同時進行で拡大していきました。デイサービス職員から感染が始まり、すべての部署に感染が拡大、結果的に52名が感染した。デイを1週間、ショートを1ヶ月間休止状態とし、次々に感染が拡大する中では、感染し勤務停止する職員と療養が解除した職員が毎日入れ替わる形でなんとか日々の勤務者数を確保する形態となったが、ケアが不可能になる直前まで追い詰められている状況が毎日続いた。入居者の生活も、通常の職員数が確保できない状況では、食事と排泄ケアを優先業務とし、入浴は1カ月間中止し清拭も追いつかない状況でのケアを実施せざるを得なかった。勤務する職員の確保が難しい状況が長引けば、食事も1日3食から2食にすることも選択肢として考えていた。

今回の感染では、あすなろが実践してきた仕事の仕組みが無かったら、感染後早い段階でケアができない状況に陥っていた。あすなろの家では、各部署の垣根を取り除き、業務として日頃から連携を強く推奨し実践してきました。この実践の中から生まれる連帯感こそがクラスター対応を可能にした大きな要因だと確信しています。この経験を自信に変えて、日々の業務、または大きな災害時の対応にも生かしていきたいと思っております。

## 利用率

	今期目標数値	令和4.4/1～令和5.3/31実績
特養（定員50人）	99%以上（空床174日）	99.3%（空床123日）
ショート（定員20人）	95%以上（19名/日以上）	94.71%（18.94人/日）
デイ（定員35人）	85%以上（30名/日以上）	70.86%（24.8人/日）
ヘルパー	15人/日以上訪問	10.3人/日
ケアマネ	36人/ケアマネ1人	40.04人/ケアマネ1人
ケアハウス（定員30人）	100%（空床0日）	92.91%（空床780日）
ひかりサロン（定員24人）	70%以上（16.8名/日）	36.68%（8.8人/日） 48%（58人/120人） 延人員 実人員